

平成16年9月10日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
委員長 小野木 克明

プロセスシステム工学第143委員会
第149回委員会・平成16年度第3回研究会 開催通知
(143委員会ホームページ <http://jsps143.pse.nuce.nagoya-u.ac.jp/>)

1. 日時：2004年10月8日（金）13:00～17:00 委員会・研究会
 2. 場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール I（時計台の中の2階）
（京都市左京区吉田本町／電話：075-753-2285
URL：<http://www.kyoto-u.ac.jp/top2/11-top.htm>）
（交通：JR 京都駅から市バス 206 系統「東山通 北大路バスターミナル」行にて京大正門前下車、
または市バス 17 系統「河原町通 錦林車庫」行にて百万遍下車、詳細は上記 www を参照）
 3. 委員会：(13:00～13:10)
 4. 研究会：(13:10～17:00)
- 13:10～14:10 WS25「制御性能監視」最終報告
京都大学 加納 学 委員
＜概要＞プロセス産業における実用的な制御性能評価・監視手法を目指して、2年間に渡って活動してきたワークショップの内容について報告する。また、その成果の一部として、ワークショップにおいて開発したソフトウェアの概要についても紹介する。
- テーマ：「PSE から見た技術伝承」（14:10～17:00）
オペレータの迅速な世代交代が直面課題となり、運転技術の伝承が急務となっている。しかし技術伝承という言葉自体も色々な局面で使われており、その意味するところもアプローチもさまざまである。そこで、今回は、プロセスプラントにおける技術伝承について、関連する方法、技術、事例を紹介していただき、さまざまな立場、見地から総合的に討論する。
- 14:10～15:10 「プロセス工学によるオントロジーの位置づけ」
東京工業大学 バトレス・ラファエル 委員
＜概要＞プロセス産業は、ますます厳しい安全性や環境パフォーマンスの要求に応えるためだけでなく、常に増加する世界市場の中で競争するために情報システムの統合化が必要なステップであると認めている。しかし、現在使用されている情報システムの大部分は、情報の互換性がない独占権をもつ表現のため、多大なコストをかけて統合することができるだけである。オントロジーは、ある特定分野のドメインについて概念化し、体系化した知識構造の表現である。プロセス工学の知識の共有・再利用に対して、そのアプローチの一つとして、オントロジーについて、その入門と応用の可能性について解説する。
- 15:10～15:30 コーヒーブレイク
- 15:30～16:00 「暗黙知を形式知に変える運転支援システム」
横河電機(株) 川村 春久 氏
＜概要＞熟練運転員が急激に減少する中で、運転ノウハウの継承は重要な問題となっている。そこで、運転員自らが運転ノウハウ（暗黙知）をフォローチャート形式（形式知）で表現でき、そ

れをそのまま運転に使える運転支援システムを開発した。運転支援システムは、非定常運転時の操作の自動化だけでなく、定常運転時における機器故障やプロセス状態の監視もできるように発展してきた。更に今後は、導入前のノウハウ抽出や導入後の評価・改善に関する支援が必要になるであろう。

16:00～16:30 「技術伝承データベースの構築」

三菱化学(株) 糸山 和年 氏

<概要>昨今、団塊世代の大量採用による世代交代の大きなうねりが来ている。プラントの安全・安定運転を維持、向上する為には、ベテランの持つノウハウ及び技術をいかに伝承していくかが大きな課題である。弊事業所ではこの課題に対応すべく、技術伝承DB（データベース）を構築したので紹介する。

16:30～17:00 総合討論

<追記>

準備の都合がありますので、出欠をご記入の上、10月5日(火)までにご回答下さい。

[送信先]

名古屋大学工学研究科 化学・生物工学専攻 小野木 克明 FAX: 052-789-3267